

平成 24 年度 第 3 回 恵那市総合計画推進市民委員会

(会議議事録要約版)

日時：平成 25 年 3 月 15 日 (金)

午後 1 時 30 分～

場所：恵那文化センター集会室

-
- 1 会長あいさつ
 - 2 市長あいさつ
 - 3 会議の公開、会議録の公表について (確認)
 - 4 議事
 - (1) 各部会の報告 (提言) について
 - (2) 平成 25 年度主要事業について
 - (3) 平成 24 年度市民意識調査結果報告について
 - 5 その他
 - 6 市長お礼のあいさつ
-

欠席委員

安藤奈都美 金木真苗 勝邦好 橋本典明 服部ゆかり 平井一兵 松井眞 三宅毅明
山田基 山本和男

1 会長あいさつ

■有本会長 皆様ご苦労様です。昨日神戸に会議で行っていて、新神戸から会場までタクシーに乗ったら運転手が話し上手で17年前の震災の話をしてくれた。外見上はきれいになった。ただ、企業が撤退し、若い人の働く場所が少なくなり、見た目ほどは元気がないのだということだ。阪神淡路はまだ回復ができたかもしれないが、東日本大震災は復興が緒に就いたばかり、これから15年で元通りになるのかどうか。日本社会、都会はまだいい方だが、地方は厳しい状況がたくさんある。恵那市も、今日来るまでに市長の施政方針演説を読むと、課題の山積状態。どこから手を付けていいか分からない。その中で市長初め皆さんが悪戦苦闘している。外部から見た目では、今まで一生懸命やってきたのにもうまくいかないのなら、人やお金が減る中で今までと同じやり方ではうまくいかないのではないのか。新しい発想を持ち込んで新しい基軸を打ち出す必要がある。私は大学でいつも話をする。セクター、公、行政……これは市長、議会、職員。その部分と、私……これは個人と企業。そして公と私をつなぐ中間のセクターということで、さまざまな団体、町内会、自治会、地域協議会、協同組合やグループ。こういった公と私をつなぐ中間の団体がしっかり役割を果たしながらうまく連携して力を合わせて地域の復興のために取り組む必要がある。この場でいうと、その基になるのは総合計画であり、その毎年の進行管理をする市民委員会、そのために年数回集まって議論してもらっている。回数が少ない上、せいぜい2時間ちょっとの会議だ。今日は年度末の恒例会議なので議題もたくさんあり、皆さんに自由に意見を言っていただく時間も取れない。当日配布の市民アンケートの報告を見て、最後の自由記入欄を見ると、たくさんの市民がたくさんの願いを書いている。その1つでも2つでも具体的に、書いた人が納得できるような市政運営、総合計画の進行管理に皆さまのますますの尽力をいただきたい。

2 市長あいさつ

■可知市長 年度末のお忙しい中、24年度最後の委員会に出席いただきありがとうございます。

有本先生に、施政方針、これを全部読み上げると40分以上かかるものだが、これを見ていただいたことをありがたく思う。執行部の思いが込めてある。ぜひ見てほしい。

毎年懇談会を各地域で行っている。これは地域自治区の協議会の主催で、市と一緒にやっていた。24年度は市長選挙、市議会の選挙が秋にあったので、2月に開始した。2月7日から3月11日まで各地域で開いた。各地域の差はあるが全体で1,140名ほどに集まっていた。多いと思っている。各市の懇談会のことを聞くと、恵那市のように200人とか100人が集まる場所はほとんどないようだ。大体役員を集めたりして50人とかだ。市民の関心が高いのだと思う。

それから、市民意識調査でも今回1,411件、56%、過去より少し低くなったが、これだけ集まるということは関心があるのだと思う。

平成25年度の予算を編成し、後ほどスライドの中で説明する。私は総合計画、行財政改革大綱を着実に実行するのが使命で、市長選挙でもそれを訴えてきた。25年度の予算もほぼ100%に近い総合計画の実施率になると思う。金額的には少なくなるかもしれないが、項目的にはほとんど網羅した。その説明もする。

今、景気浮揚を盛んに言っているが、恵那市まで波が来るのは遠いと思う。したがって、市税の収入も減っている。どういう予算を組むかは苦慮したが、前年並みで、一般会計は減ったが、それは国の緊急経済対策で25年度事業を24年度に前倒ししたのが7億7千万円ほどあるので、結果的には2.2%ほど増になった。私の考え方は、元気で活力あるまちを作っていきたいということだ。それを観点に予算を編成した。

3 会議の公開、会議録の公表について（確認）

4 議事

（1）提言内容への対応状況について

■会長 事務局から10分ほど報告してもらい質疑応答を15分ぐらい行う。

[事務局から資料に基づき説明]

■会長 質疑応答をいただく。

■委員 2つ質問する。

生涯学習の関係。平成25年度から文化センターに生涯学習まちづくりセンターを設置して、恵那市市民大学を本校と13地域で実施するようだ。ただ、地域協議会で、関係の課から説明を受けているが、する側に対してメニューを作るのは結構だが、恵那市民からのメニュー、市場調査、恵那市民がどういうことをやっていきたいのか、事前の調査があつての市民大学でないとかみ合わないのではないか。担当課に聞きたい。

地域自治区の課題について触れられた。13地域連絡協議会の座長を私はしている。平成17年から条例が可決され今年で9年目になるが、地域協議会という名称と内容は市民がまだ十分理解していない。自治連合会が上なのか地域協議会が上なのかという趣旨の質問が多い。住民組織としてはどれが上ということはないと理解している。ただ、自治連合会は過去の住民の連絡団体として、市民の隅々まで伝達ができるという機能がある。地域協議会は自治区条例に基づいて市長からの諮問に答申する。地域の課題を建議する。この2つの組織がどう連携して地域課題を行政に反映するかが大事だ。その点は自治連合会と地域協議会で4名ずつ8名で、連携の手法をどうしたらいいのか議論した。13地域同じ色で統一できる状況にはならない。各地域がそれぞれの歴史があるのでそれを生かし13色の自治

連合会と地域協議会が連携して地域協議会の機能を各地域が活用したらいいのではないかと、という趣旨は理解いただいた。今後は13地域が具体的にこれからどうするのかという作業に入る。もう1点は、現在地域協議会が発足して5年間で当初地域補助金という形でまちづくりを進めようとして出発したが、5年間で消化しきれないので、27年度まで延ばし10年間でまちづくりの事業を進めることになっている。28年以降は、どのような補助のあり方、財源が必要なのか、25年度に自治連合会と地域協議会が方向付けする。補足説明だ。

学習センターについては、疑問を感じている。

■委員 6ページ、広報広聴活動の充実。広報紙を見ているが行事ばかりで面白くない。合併する前はかなりいろいろな記事があり興味をもって見たが、行事の周知だけの広報紙になっているようだ。

指定管理者制度をかなり取り入れている。小泉内閣のときに、民間に任せるものは任せるということで作られたようだが、行政の経費節減のために使われているところがある。それではいけない。市民がいい行政サービスが受けられることが大事だ。その辺の考えを聞きたい。

■教育次長 生涯学習について。恵那市は三学のまち推進計画で市民三学運動を進めている。昨年7月に文化センター内に生涯学習まちづくりセンターを設置し、県から所長に職員を入れた。新しい市民三学塾の準備を7月からしてきた。大きく2つある。1つは自立した個人の育成。もう一つは、自立したコミュニティーの育成。公民館の生涯学習講座は趣味教養的なものが中心だった。それに加えて、地域自治区の活動と、生涯学習が結びついていないということがあり、新しくメニューを作った。それが市民大学講座で、産業経済、まちづくりに資するコースがある。市場調査に基づいていないという指摘があったが、講座の中で新しく市場調査も進めたい。新しく市民大学講座を始めることで、市民とともに行政も学びたい。

■企画部長 地域自治区と自治連合会の連携については、委員が説明されたように、24年度2つの組織で話をしてもらい方向性を出してもらった。今役員改選期だが、それぞれの地域で連携を取っていただく新しい組織に変えつつあると聞いている。1つの段階をクリアしてさらに自治組織としてより高いレベルに行っていただけたらと思う。

広報紙について。合併してから恵那市は地域が広がったことと、各地域でいろいろな活動があり行事がたくさんある。それを広報紙にお知らせや結果を載せてくれという要望がたくさんあるので載せている。それから、県の「くらしと県政」という広報紙が数年前から廃止になった。たまにそれに載らないものは市町村広報紙で載せてくれと県から言ってくる。ページ数は経費面もあり24ページを守っている。特集記事に割くページが少なくなり、合併前の旧恵那市と比べるとボリュームのある特集記事が弱くなっている。しかし6ページぐらいは特集でページを取れるので、市民の立場で市民の知りたいことを書いて

いくようにしたいと思っている。ただ、県の広報コンクールで、最近恵那市の広報紙は県の代表になっている。それほど悪いものではないと思っている。

■事務局 指定管理者制度は、民間の活力を導入して少しでもコストを安く、サービスは今までよりもよくということで導入している。皆さまによく言われるのは、サービスの低下につながるのではないかということだ。それについては、毎年モニタリングでそれぞれの施設の利用者アンケート、その施設の管理者の評価を行い、保育園などは第三者評価を行っている。その結果、市では時には指導や指定管理を解除することがある。少ないコストでよりよいサービスを提供するということだ。

■会長 議題1の予定時間が過ぎた。市民委員会の委員をしている行政情報に精通した皆さんの中でもこれだけの質問が出るということは、普段からの委員と行政との間のコミュニケーションをこの場でないどこかでやっていただかないと、この場としては成り立たない。今までと同じやり方では回っていかないということだ。この場は納得しないけど議題としては、そのものを全否定するということではないと思うので、了としていただき次に移ってもいいか。別の機会にもっとコミュニケーションを取ってもらいたい。

(2) 平成25年度主要事業について

■会長 説明30分、質疑15分の予定で行う。簡潔に質問、答弁をしてほしい。その後休憩する。

[事務局から資料に基づき説明]

■会長 10分間休憩する。

[休 憩]

■会長 再開する。質疑応答を行う。財政事情のことなども含め、質問、意見があれば。

■委員 基金の状況で、地域振興基金、トータルで35億円となっているが、今後各地域で、伺うところでは地域協議会と実行組織に関わる分野での財源のあり方も今後1年間検討するのだが、そのものの性質と違って、35億円についての地域振興基金は、各自治会や地域協議会から、主要事業が地域から出てきたときに、そうしたものの基金活用をするということであるかどうかということ。

それについては、出てきたものを直ちに実行に移すのか、もしくはその内容が正当であるのかどうかを含め、審議会を設け、そこで合理性のあるものは活用していくのか。

■企画部長 地域振興基金は地域の財源として考えているので、考え方についての質問だと思う。少し全体的な話をする。現在の地域の財源である地域のまちづくり基金の補助が平成27年度までで、武並町ではすでに使い切っている。25年度1年かけて次の財源を考えないといけない。地域振興基金35億円の一部を使ったらどうかという話だ。具体的にどのような事業に使うかは白紙だ。ただ、市民委員会の指摘事項の回答にも書いたが、現在市

で考えている方向性としては、地域内分権の組織なので、地域予算という考え方で、現在のまちづくり実行組織の活動の財源としての考え方と、それとは別に地域協議会で地域の課題解決のために、これに使うという意味決定をして使うという2段階で考えてはどうかということだ。ただし、いくらでもいいということではないので、金額の上限はつけなくてはいけない。例えば、これから地域自治区制度を目指す新城市では1地域2千万円という上限があるので、恵那市もそういった上限を作りながら考えてはどうかと思っている。それ以上のものは、市全体で議論すべきことなので、それは市全体の予算を作る中で議論すべきだと思う。

35億円は、本来は、果実運用といって、利息をソフト事業だけに当てるとというのが法律の趣旨だ。ところが、返金の済んだものから取り崩してハード事業にも当てられると県・国から聞いているので、28年度ぐらいから一部償還が完了するのでそういったものにも徐々に当てていきたい。

1年間かけて地域協議会や自治連合会に相談する。

■委員 5ページの学校教育の充実について。教育委員会でも地域でも検討いただいている。私は上矢作町で、中学校の生徒数は50人にも満たない。行政が積極的に、「恵那市になったんだよ。」「小さい学校にはデメリットもある。」ということを経験して話し、地域の人に理解させて進めていくことが大事だと思う。地域から「学校をぜひ統合してくれ。」という意見を言うということはないかなと思う。現在明智、飯地、串原にも出向いているようだ。どういう意見があったのか。これからどう進めるのか。合併特例債を利用することもあると思う。タイムリミットもあると思う。それについて今お話しいただき恵那市全体で理解したい。

■教育長 今のような意見を心強く思う。8日に中学校の卒業式に参列いただいた人も多いと思う。8つ中学校があり、どの中学校も厳粛な立派な卒業式ができた。私は恵那西中に行った。表情も目も生き生きしていた。恵那市はこの子たちに任せておいて大丈夫だと思った。自分も何百人という学校を経験したことが多い。やはりこれぐらいの規模でやりたいとつくづく思っている。具体的には旧恵南地区の中学校のことになる。現在の5校を合わせると西中学校、東中学校ぐらいの規模になる。やがては1つにしたい。が、旧町村それぞれにあった中学校なので、これをどこに作るのか、交通手段はどうするかという問題。また、保護者、かつて保護者だった年配の人の思いが世代によってかなり違う。皆さんの意見を聞いて、私たちの考えていることを理解してもらうには時間がかかると思う。一つ思うのは、現在も通っている子がいるということだ。先延ばしというのは、いたずらに延ばしてはいけない。しびれを切らした方は、特に恵南地区では瑞浪の方が便利だったり、私学もスクールバスを奥まで走らせているのでそちらへ行く人が増えている。今は情報収集し意見を聞いていこうということで、25年度からは対策室を設置し、地域へ出かけ

てご意見をいただく。積極的な意見を聞かせてほしい。

■会長 ほかに意見はないか。

■委員 上矢作町に行ったら「学校がなくなつてはたるい。」とか、岩村町は「教育のまちだから俺のところには学校がなくなるのはもつての他だ。」とか、ただその話をするだけでも何年かかかってしまうと思う。5つのまちで1つの学校にしようなんてことは。だから、積極的に話を進めてほしい。

■会長 意見として、よろしく頼みたい。他にないか。次に進む。

(3) 平成24年度市民意識調査結果報告について

■会長 資料に基づき進める。

[事務局から資料に基づき説明]

■会長 質問、意見を受ける。

■委員 病院のことで、産婦人科を増設すると書いてあるが、決まったのか。

■医療管理部長 市立恵那病院の再整備の基本計画がある。今19の診療科があるのを20の診療科にする。今婦人科があるがそれを産婦人科にする。腎臓内科を新設する。

産婦人科の現状。医師はまだ決定していない。地域医療振興協会が恵那病院を指定管理者制度で運営している。協会での医師の確保、そして我々も各大学の医局を回り医師の確保をしている。昨年8月に助産師を1名採用した。医師だけいけばいいわけではない。婦人科も昨年10月から民間の医師を頼み診察を増やしている。一步一步実現に向けて進んでいる。

恵那市の産婦人科は平成19年5月までであったが、それ以降はない。近隣では中津川市に公立1、民間1、瑞浪市に個人2、土岐市は公立も民間もない。多治見市は県立多治見病院で異常分娩のみ、民間3。岐阜県でも東濃地域は産婦人科の医師が少ない。

■会長 ほかに。

■委員 冒頭に話されたが、表の中に地域協議会の活動状況が載っている。参加したことがあるのが17.4%、知らないが38.6%という状況だ。10年経っている。自治会は歴史があるが、年々自治会に入らない人が増えている。今後も増えると思う。そうすると地域の活動は完全にまちづくりが実行部隊となって、地域のまちづくりとしては大事な組織になる。できるだけ地域の方を巻き込んで進めていくことを特にお願いしたい。

私は今明知鉄道にいて明知鉄道のことしか頭にない。概要版ではない方に自由意見がある。明知鉄道にSLが走るといいとか。私どもも、社長は市長で、指示をもらったり内部でも検討していて、明智駅に土地がないので自前で土地を物色して話をしている。その土地にSLを持ってこようと思っている。使っていない線路が1本あるのでそれを改修して置く。明智小学校にあるSLを持ってきてコンプレッサーで動かしたい。25年度中には目

星をつけたい。

もう一つ、DMV。国交省が導入検討の会議を主催しており、明知鉄道もその委員になっている。第2回が3月28日に東京で会議がある。法整備、導入の仕方について今後話す。6月末に一定の検討会を終え、あとは国にお任せする。これも今後考えていく。ここにみえる方には支援をいただかないといけない。SLはかなりの金がかかる。とりあえず明智駅がにぎやかになればと思う。

■委員 事業をやる時、いかに地域の方に参加してもらうかが非常に大事だということは認識しているが、私ども串原のように少ない人員のところでは、交流人口をいかに市外から導入するか。いかに地域の人に参加してもらわず、少ない人数で実現するかが大きな課題だ。参加を減らすことも重要だと思っている。

■会長 他に。

私から一つ。自由意見を読んで、市の職員の対応についての苦情があった。上から目線、ため口ということ。これは、物事を総合的に見る必要があり、該当の職員からすると親近感を持つためにそういう言葉づかいをされたのかと思う。市民の受け止め方はいろいろあり、話している人が善意でもそれを逆に受け取ることもありうる。そういうことでは、市の職員はいろいろな受け止め方があることを踏まえ、対応する市民にふさわしい口のきき方をしていくことが大事だと思う。

この膨大な自由意見の中には、お金をかけずに、市の職員はほとんどメールを持っているので、該当のところに連絡のメールをパッと出せば、読んでいただけたらすぐに周知できる。情報の宝だと思う。読んだらすぐさっと分かる優秀な職員ばかりだと思うので、インフラ整備をしたり協議会やプロジェクトを作らずすぐ改善できることもある。それができれば、意見を出した人が市の職員の対応が変わったと、急速に満足度が上がると思う。参考にしてほしい。

5 その他

〔事務局から資料に基づき説明〕 推進市民委員会の任期～

6 市長お礼のあいさつ

■市長 昨日夜、広報の関係で市政モニター会議があり、そこで2時間ほど話した。終わりのとき、いろいろな意見を聞いた。会議は、初めのうちはなかなか声が出ず、終わりにぎくばらんないろいろな意見をいただいた。そういう声が市民から出てくる必要があると思う。

2年間お世話になりありがとうございました。総合計画に沿った事業をしっかりとやるということで、ほぼ100%に近い実施率だと思う。次の第2次総合計画策定に入る。今の総合計画は合併を見据えた新市まちづくり計画に基づいてできたものだといってもいい。合併の段階からある程度できていた。第2次総合計画はこれからの難しい時代に向けてのも

のだ。皆さま方の協力を得てしっかりした計画作りをしたい。委員をして恵那市のことを知っていただいたので、いろいろな立場で市に意見や指導をいただければと思う。

2年間ありがとうございました。

[閉 会]